

18 視覚に訴えた安全活動について

岩泉営林署 総務係長 關 建 彦

1 はじめに

岩泉営林署では労働災害を撲滅するため、本署において視覚に訴えた安全活動に取り組んでいるので、その活動について発表する。

2. 視覚による安全活動状況

(1) 安全紙芝居の活用

紙芝居は手作りの「安全を考える」『武蔵くんの知恵』と「安全の王道をめざす」『徒然草の知恵』の2編です。

「安全を考える」『武蔵くんの知恵』は宮本武蔵と佐々木小次郎との巖流島の決闘にあたり、武蔵くんは

ア つばめ返し、物干竿の長さ、決闘の場所などを調べて対策をたてている。

イ 自身は平常心、相手をカーッとさせている。

ウ 太陽を背にして闘っている。

エ 物干竿より1尺（30センチメートル）以上長い木刀を使っている。

などで闘い、勝っている。

このような話から、

ア 作業の前に安全な段取りと良い作業動作を考える。「事前の原則」

イ 油断等をしないで安全作業を確実に行う心を持って作業を行うこと。

ウ 作業環境を考え作業を行う。「位置エネルギーの原則」

エ 危険から離れて作業を行う。「遠隔操作の原則」

オ 作業にあった工具で作業を行う。「適正工具」

などの大切さを述べている。

「安全の王道をめざす」『徒然草の知恵』は、吉田兼好が著した「徒然草」の名人・達人の話から

ア 木登りの名人が人を指図して木に登らせて作業をさせているとき、枝の細い危険なときは何も言わず下の易しいところに降りてきたとき、「ウッカリはアカンで、用心して降りるんや」と声をかけた話だから、災害は易しいところで起こすので油断をしないこと。

イ 久米の仙人が、娘さんのあらわな姿で洗濯しているところを見て、雲から落ちる話から注意力は一点に集めすぎると他がおろそかになるので注意力は一点に余り集めてはいけないこと。

ウ 博徒は勝とうと思ってはいけない、また博打を好んで夜更かしをするのは犯罪などより悪いことをしている。などの話から気負わず平常心と深酒や夜更かしをして

自ら心身の不調を招かないこと。
などの大切さを述べている。

紙芝居は、安全が易しく、楽しく覚えられると好評で、また、どこでも上演ができ一枚でも活用できるが、内容を覚えられると効果が少なくなる欠点もある。

特に「紙芝居」のときは、お茶やお菓子で雰囲気のを和らげて行っている。

(2) 安全カレンダーの製作について

当署では毎年、安全週間には安全標語を募集しているが、そのうちの優秀作品について署庁舎内に掲示しているだけでありましたが、これの活用を図るためそのなかから12句を選び、安全標語カレンダーを作成した。

カレンダーはB4版の用紙を使い、標語にふさわしい絵を描き、色を塗り、作者の意図を記載し、毎月、前月の20日頃に現場、森林事務所などに配付し事務室や人送車に掲示している。

(3) 交通安全看板の製作

今年、無事故・無違反コンクールに参加したことから岩手県警察本部が提唱する『かも運転』のマークを集成材を使って作り、門の扉に設置し、車の運転をして出掛けるとき、職員に予測運転の励行による交通事故の防止を呼びかけている。

(4) 安全衛生ニュースの発行

視覚に訴えた安全活動の柱となっているもので、行動災害の防止をめざし、読まれる安全ニュースに努め、毎月2回発行し、作業基準による作業の大切さの外、安全の原則、自主的健康管理などを分かり易く解説して作成している。

(5) ビデオの活用

作業行動をビデオに録画し、それを放映して基本動作について、さらに、安全ビデオコンクールの作品、安全及び衛生関係のビデオなどを放映し、作業動作、安全衛生活動などについて、みんなで意見の交換を行っている。

(6) 家族への呼びかけ

労働災害の発生には家庭環境が大きく関わっているといわれ、また、家庭は疲労を癒し、情緒安定させる場所でもある。

いわば、喜怒哀楽が心の動揺を起し、それが安全作業に大きく影響していると考えられる。

このようなことから

ア 安全週間には葉書で。

イ 年の始めには年賀状で。

家族などに安全を呼びかけている。

3. おわりに

本署で視覚に訴えた安全活動取り組んだ結果、安全が易しく理解され、肩が凝らないなどと評判もよくこのようなことから、安全教育の受講、安全作業、安全活動などに積極的な姿勢が見られるようになった。

また、適切な場所に標語や看板の設置により、安全に対する意識も長続きするものと考えられる。

このようなことから現場でも、視覚に訴えた安全活動の取組もみられ

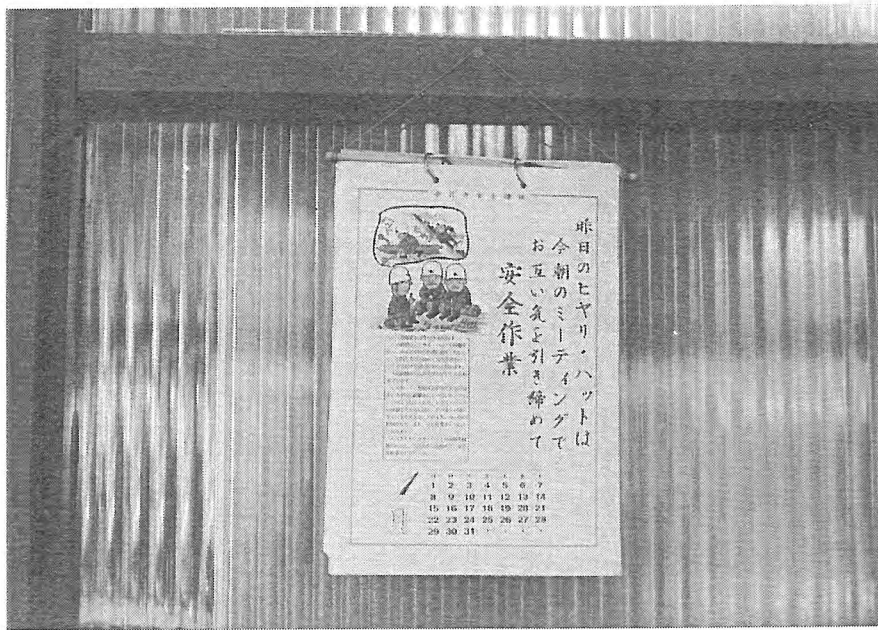
(1) 局管内の鎌災害を分析し、見間違いや危険の意識を高めるため、鎌の柄に滑り止め青テープを、さらに危険なところには赤テープを巻き、また、ヒヤリ体験から考えたドア・ストッパーには目立つように赤テープを巻く着色標示。

(2) 安全カレンダー及び毎月の安全項目を人送車等に掲示。

などを行っている。

とかく、安全教育、安全活動はどうしてもマンネリ化になりがちですが、今後も新しい安全に積極的に取り組み、全署一丸になって労働災害の絶滅を目指したいと考えている。

写-1 安全カレンダー



写-2 かも運転看板

